

## 3R(資源循環)

### 基本的な考え方

社会の一員として法令を遵守しつつ、資源を有効活用するために、会社から発生する廃棄物は、最大限「ゼロ」に近づける“ゼロエミッション”を目標に、「3R(リデュース・リユース・リサイクル)」活動を積極的に推進しています。

### 2015年度の目標と実績

2015年度は、再生資源の適正な活用に関する要綱(愛知県)を遵守し、発生量の削減とリサイクルを推進してきました。結果、直接埋立の廃煉瓦、間接埋立の汚泥といったリサイクル困難な副産物の「安全」「安心」「安定」な新たなリサイクル用途が見つけれず、目標に届くことができませんでした。今後は、副産物発生源での選別・仕分けをさらに追求、管理を強化するとともに、リサイクル技術の開発を進め、資源の有効活用に努めていきます。

項目	2015年度目標	実績
直接埋立量	2,400t/年 以下	3,393t/年
間接埋立量	3,000t/年 以下	2,963t/年

### 社内副産物を活用した高強度研削材「ASショット」の量産設備を新設

ASショットは社内副産物である電気炉スラグから作る「環境にやさしい研削材」です。既存品に比べて粉塵発生量が少なく、繰り返し使用が可能のため、スラグを活用した高付加価値商品として塗装の下地処理、さび落とし、金型洗浄等の用途において好評を得ています。

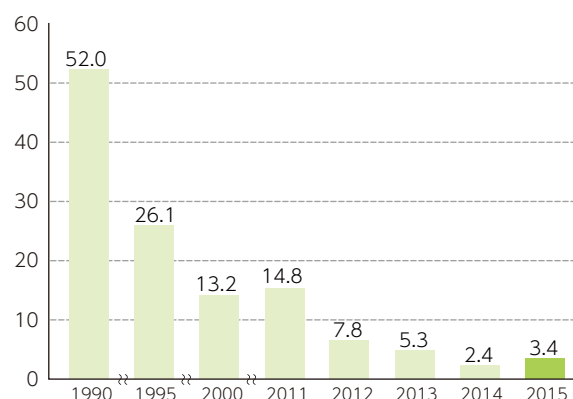
今後、塗装の高寿命化、耐久性向上のための下地処理としてブラストでの工法が増えていくと予想されます。そのニーズに対応すべく、量産のための技術を確認し、当社のリサイクル技術の成果として拡販を目指していきます。

### 副産物処理のBCM、BAP\*

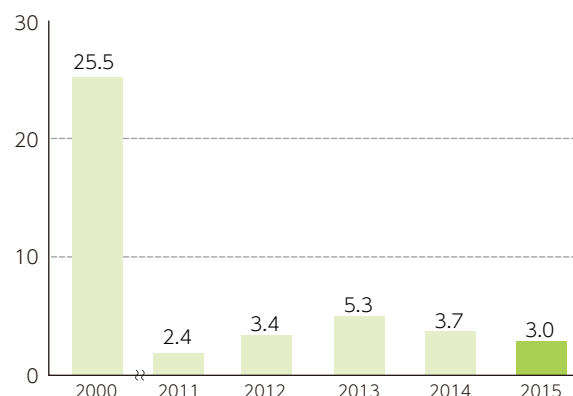
副産物の「安全」「安心」「安定」な処理のために、副産物処理の複数、複社化の推進、代替対応等、BCM、BAP化に努めていきます。

\*BCM : Business Continuity Management  
BAP : Backup Action Plan

#### 直接埋立量の推移 (千t/年度)



#### 間接埋立量の推移 (千t/年度)



## 生物多様性

### 基本姿勢

生物多様性の保全に対する取り組みは、地球温暖化とともに持続可能な社会を実現していくための重要な環境課題であると考えています。

当社では、COP10(生物多様性条約第10回締約国会議)の理念を受け、生物多様性の保全に向けた取り組みとして、官民協

働で生態系ネットワーク形成を推進し、次世代の担い手の育成を図る活動に参画しています。

これまで取り組んできた森林育成活動や社員によるボランティア活動の推進に加えて、生態系を保全するプロジェクトの取り組みを進めていきます。

### カブトムシのすむ森づくり

生物多様性維持に向けた活動の一環として、落葉広葉樹の森を形成し、カブトムシをはじめとする生き物が自然のサイクルの中で暮らしてつづけていける環境を創出することを目標に、2012年度より『カブトムシのすむ森づくり』活動を実施しています。2013年度には従業員家族および関係者により約1,200本の植樹を行い、その後も知多半島生態系ネットワーク推進協議会・NPOの学生実行委員会のメンバーと協業にて育成活動を行っております。2015年度は、昨年までに植樹した箇所の除草や灌水を行ったり、「森2イベント」と題して、ドングリ拾いからの苗作り・植樹<sup>もりもり</sup>などを行う、社員・家族参加型のイベントを開催しました。



### 森林育成ボランティア

当社は、鋼(ハガネ)を生産する際に大量の水を使用することから、愛知用水の源流となる長野県の森林育成に取り組むNPO法人「緑の挑戦者」の活動に共感し、2006年より毎年2回/年、社員ボランティアを募り現地で森林育成のための除伐、間伐作業に汗を流しつつ、現地の方々との交流も深めています。

#### 長野県 木祖村



#### 長野県 王滝村

